

主な出来事

- 1854年(嘉永7年)3月
日米和親条約調印 下田即時開港
- 1854年(嘉永7年)5月
ペリー下田上陸 了仙寺で下田条約調印
- 1856年(安政3年)8月
ハリス着任 玉泉寺に日本最初の米国旗
- 1908年(明治41年)10月21日
吉田松陰50年祭(下田八幡神社)
- 1908年(明治41年)10月31日
開港50年記念慰霊奉告祭(玉泉寺)
- 1925年(大正14年)4月16日
開港70年に米国外使来訪
バンクロフト米国外使が駆逐艦夕風にて
ハリスの遺跡を訪ねて下田を訪問。歓迎
会、花火大会、提灯行列など開催
- 1927年(昭和2年)10月1日
ハリス上陸記念碑除幕式(玉泉寺)
マクベ-米国外使一行は駆逐艦島風にて
来訪し、除幕式に参列。



第1回黒船祭の様子

幕末、日本の鎖国政策は日米和親条約の締結により下田が即時開港されました。ペリー提督は下田に上陸し、日米和親条約附録十三ヶ条「下田条約」を締結します。内容は遊歩権内の関門出入りの保障、上陸場所の設定、休息所の設置、そして埋葬所(玉泉寺)の設置などでした。

これにより、下田は日米間にとつて初めてつくしの町となります。まず、米国人が初めて日本の地を自由に歩き回れるようになりました。一般の町民と直接にふれあうことのできる最初の町となったのです。そして亡くなった米国人が初めて日本の土地(玉泉寺)に葬られました。

移り下田港は閉鎖となりますが、米国にとつて下田は忘れられない町となりました。明治後期になると、開港50年、70年などの節目の年に様々な行事が行われ、米国外使が度々下田を来訪しています。日米交流が脈々とつながれていくことが垣間見えます。そして記念すべき第1回目の黒船祭が昭和9年に行われました。下田開港の内外先賢の偉業を顕彰し、偉大なる功績を永遠に記念し併せて世界平和と国際親善に寄与するため、という崇高な精神は現在でも受け継がれています。太平洋戦争や2度の地震災害による中止もありましたが、およそ80年続く黒船祭は日米交流の原点である証と言えるでしょう。

日米交流の原点は下田から

下田公園にある開国記念碑には「日米修好の基礎は下田に於いて築かれた」と刻まれています。この言葉に下田市が日米交流の原点であることや、長年に渡り黒船祭が行われる最大の理由が集約されています。

これにより、下田は日米間にとつて初めてつくしの町となります。まず、米国人が初めて日本の地を自由に歩き回れるようになりました。一般の町民と直接にふれあうことのできる最初の町となったのです。そして亡くなった米国人が初めて日本の土地(玉泉寺)に葬られました。

移り下田港は閉鎖となりますが、米国にとつて下田は忘れられない町となりました。明治後期になると、開港50年、70年などの節目の年に様々な行事が行われ、米国外使が度々下田を来訪しています。日米交流が脈々とつながれていくことが垣間見えます。そして記念すべき第1回目の黒船祭が昭和9年に行われました。下田開港の内外先賢の偉業を顕彰し、偉大なる功績を永遠に記念し併せて世界平和と国際親善に寄与するため、という崇高な精神は現在でも受け継がれています。太平洋戦争や2度の地震災害による中止もありましたが、およそ80年続く黒船祭は日米交流の原点である証と言えるでしょう。



米軍主催墓前祭
海上花火大会
公式パレード
黒船サンセットコンサート
再現劇「日米下田条約調印」
様々なイベントが下田を彩る3日間

感謝の気持ちをつないでいこう

「幕末タイムスリップ」を合言葉に黒船祭は今年で73回目を迎えます。コンセプトは「日米交流の原点は下田から『感謝の気持ちをつないでいこう』です。昨年の東日本大震災直後、米軍はトモダチ作戦を展開し、いち早く我々のもとに駆けつけてくれました。この素晴らしい、強固なパートナーシップの原点の地が私たちの住む「下田」といえます。約160年前、条約締結により下田は日本で初めて米国人と民間人が直接ふれあえる町となりました。歴史的に見れば非常に短期間ではありましたが、この出来事をきっかけとして長い友好関係が築き上げられてきました。

本年の黒船祭においても米国外使を始めとして米軍、姉妹都市のニューポート市から多くの人が参加します。そして災害時のみならず、常に私たちを守ってくれている自衛隊や海上保安庁、警察の皆様にも感謝の気持ちを込めて、今年の日時・場所 5月16日(水)まで ※5月2日(水)から5月7日(月)の間は休止。 「道の駅開国下田みなと」特別展示室 5月18日(金)〜20日(日) 下田市民文化会館小ホール 展示時間 両会場とも午前9時から午後5時まで

「幕末タイムスリップ」を合言葉に黒船祭は今年で73回目を迎えます。コンセプトは「日米交流の原点は下田から『感謝の気持ちをつないでいこう』です。昨年の東日本大震災直後、米軍はトモダチ作戦を展開し、いち早く我々のもとに駆けつけてくれました。この素晴らしい、強固なパートナーシップの原点の地が私たちの住む「下田」といえます。約160年前、条約締結により下田は日本で初めて米国人と民間人が直接ふれあえる町となりました。歴史的に見れば非常に短期間ではありましたが、この出来事をきっかけとして長い友好関係が築き上げられてきました。

本年の黒船祭においても米国外使を始めとして米軍、姉妹都市のニューポート市から多くの人が参加します。そして災害時のみならず、常に私たちを守ってくれている自衛隊や海上保安庁、警察の皆様にも感謝の気持ちを込めて、今年の日時・場所 5月16日(水)まで ※5月2日(水)から5月7日(月)の間は休止。 「道の駅開国下田みなと」特別展示室 5月18日(金)〜20日(日) 下田市民文化会館小ホール 展示時間 両会場とも午前9時から午後5時まで

東日本大震災被災地支援活動パネル・映像展

東日本大震災における災害救助、支援活動に全力で取り組まれた在日米軍、自衛隊、海上保安庁、警察の皆様のご活躍を皆様にご紹介し、被災地支援の気持ちを再認識する機会とするため、被災地支援活動の様子を紹介するパネル・映像展を開催しています。



第73回黒船祭 開催にあたり

下田市の最大のイベントである国際色豊かな黒船祭は、昨年は「東日本大震災」の影響を受け、中止となりました。本年開催されます第73回黒船祭は、東日本大震災の災害救助、災害支援活動に昼夜を問わず取り組まれましたアメリカ、自衛隊、海上保安庁、警察等の関係機関の皆様方に感謝の意を表わすとともに復興に向けて力強く前進することを確認する機会とし、更には国際親善に寄与する祭典と位置づけ、5月18日から20日までの3日間開催いたします。また、静岡県共催、観光庁後援のもと、ルース駐日米国外使、ニューポート市関係者等、国内外の多くの皆様のご来場を予定するとともに、岩手県の皆様をご招待し、山田町郷土芸能の披露及び物産展なども実施いたします。日米の友情が言葉だけでなく、現実にも手を取り合っている出来事を日米友好の始まりの地として大切に繋ぐための新たな催しも実施する特別な祭典となりますので、市民の皆様への積極的な参加、ご協力をお願い申し上げます。

下田市長 石井直樹